

令和5年度 さくら幼稚園自己評価結果報告

学校法人敷島学園 さくら幼稚園

1. さくら幼稚園の教育目標

- * 健康 元気で正しく歩む子ども
- * 和敬 豊かで美しい心の子どこ
- * 快活 明るくはっきり言える子ども

2. 教育方針

建学の精神である「健康・和敬・快活」を教育目標とし、創立以来の歴史と伝統の上に、よりよい環境の中で、多彩な行事や体験を通して豊かな感情を養い、一人ひとりの心づくり、体力づくりに努めることとし、下記の方針のもと「特色ある幼児教育」を追究する。

- * 子どもの自主性を育て、遊びを通して豊かな人間性を育む。
- * 「本もの」に出合える保育を追究し、Only Oneを育てる。
- * 人と関わり、地域社会への貢献につながる行事の工夫。
- * いのちと安全を守る力を育てる。
- * 教職員の指導力を高めつつ、一人ひとりの園児の実態を、全職員が共通理解することにより、行き届いた保育と質の高い教育ができるように努める。
- * 多彩で豊かな園行事の実施
- * 子育て支援の充実

3. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

教育方針をさらに深化し、地域における子育て支援活動の充実を目標として、積極的に未就園児を持つ保護者（幼児）ともふれ合い活動を実施する。

- * 遊びの指導と工夫
- * 読書活動の推進
- * 専門教育（英会話・茶道・体操・器楽・絵画・リトミック）の実施継続
- * 教職員資質向上のための園内外研修の実施
- * 預かり保育の充実
- * 認定こども園に移行するにあたり、新園舎設立に向けて着工となるため、園庭が半分の広さに制限、また菜園場所も変わるが、子どもの経験を減らすことのないよう工夫する。

4. 評価目標の達成及び取り組み状況

下表の大評価項目をさらに分野ごとに小評価項目を設定し、全職員による自己評価を行った。（結果要約）

評価項目(大)	取り組み状況及び結果
保育の計画性 教育理念・教育方針・指導計画・環境の構成	大半が達成されていると評価。 ・ 計画性を持ち、準備・行動に移しているが、もっと臨機応変に対応できるように心がける。 ・ 園の教育理念・方針の確認について主任者間・各学年での話し合いの機会をもち、意識の統一を図ると共に、共通理解を深める。 ・ 教育課程、指導計画の見直しをはかると共に、加筆、訂正を行う。 ・ 行事計画を主任者会議等で話し合う機会を持ち、子どもの実態に即した内容になるように努める。 ・ コロナウイルス感染症が5類になることを受け、行事の見直しをすすめていく。 ・ 計画、実施、評価、改善を日常的に行う。 ・ 大切な事を意識するための指導計画を立てて、子どもの小さな変化を読み取る事。
個人記録の作成・保育と計画の評価及び反省	大半が達成されていると評価。 ・ 行事ごとに反省会を行い、外部からの評価等を検討。 ・ 日々の記録を参考にして、子どもの実態を把握。また、担任以外でも都度の気づきを互いに連絡し合い、次の保育に反映させるようにしている。
保育の在り方・幼児への反応 健康と安全・幼児のみとり・指導とかわり・保育者同士の連携	大半が達成されていると評価。 ・ 月1回以上の遊具及び園全体の安全点検を行う。安全第一を職員の合言葉とし、毎日の保育室の点検、また、消毒・除菌に努め、園児がより良い環境で過ごせるようにする。 ・ 配慮を必要とする園児について、全職員での共通理解をはかる。 ・ 学年間だけでなく、各学年主任間との連絡を密にし、「報・連・相」を大切にする。 ・ 幼稚園の一つひとつの活動を楽しみ、幼稚園が好きになるように心掛ける。 ・ 子どもが一日安心して過ごせる環境作りと、自信を持って自己を発揮できるよう場所の確保をする。

教師としての資質や能力・良識・適正 専門家としての資質能力及び良識・組織の一員としての在り方	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> 全職員による研修を行う。「安全第一・報連相・プロ意識での考動・笑顔愛語」を合言葉に、個々に組織の一員であることを心掛ける。 教職員の資質向上のため自己研修に努め、考動すること。 道具や時間の使い方、また、仕事の上手な簡素化を図る。 「何事も丁寧に…」が、質の高い教育と保育をもたらす。 学年同士の話し合いを密にし、お互いの意見やクラスの様子等を十分伝え合い、保育に活かせるようにしていく必要がある。 疑問に思った事やわからない事などは、すぐに先輩の先生に相談することができた。
保護者への反応 情報の発信と受信・協力と支援	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> 年間で4回参観日を設定し、園児の園での様子や成長を見てもらう機会をもつ。 保護者への情報提供として、園だより・園長通信・種々のお知らせ、園サイト・コドモンの活用等で家庭との連絡をとる他、参観日・行事を通して子どもの成長を実感できる機会を設けた。 保護者参加型の行事や催しの仕組みづくりをすること。保護者の人数の多さがプラスに働く。
地域の自然や社会とのかかわり 地域の人々とのかかわり・小学校との連携	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> 来園者と会い談話する中、応援者がますます増えてきた事を実感。 自慢できる事、やり方等、地域で語り合える環境をつくる事。
研修と研究 研修や研究への意欲・専門性・園内研修	大半が達成されていると評価。 <ul style="list-style-type: none"> 新しい情報を素早くキャッチし、耳を傾けること。心を届けること。自分も外向くこと。 園内研修の反省やアドバイスから、設定保育・自由保育の垣根を越えたスムーズな遊びを提案できるよう心掛けたい。 「本もの」に出合える保育を追求できるよう、知識だけでなく自分自身も楽しみながら体や感覚を使い、技術を身につけられるような研修に参加したい。 自分の特技を生かし、楽しみながら保育できる環境である。 小さなことを継続してこそ実を結び、実行に移すことで変化をもたらす。
子育て支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 満3歳児保育及び預かり保育の充実を目指す。就労の母親が増え、早期入園・長時間保育の希望者が多くなったことから、子どもの居場所の確保と通常保育終了後は、家庭的な雰囲気の中で預かり保育を心掛けている。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 家庭、また医療・リハビリセンター等の専門機関との連携をはかり、個々の園児に対応して支援の計画及び保育にあたるよう努める。
財務運営の状況	<ul style="list-style-type: none"> 監事監査、公認会計士検査を受けており、当園の財務は適正かつ正確であると評価されている。園運営においても、適正に運営されており、活気があると評価された。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由・感想
B	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達自らが経験し、実感できる環境づくりに努めてきた。 子どもの『やりたい』という気持ちや、子ども同士の関りを大切にしており、また、個人差に配慮しながら、子どもの成長を見守るようにしている。「自分で」という気持ちが強く、出来ないことは、一人ひとりに合った援助を行うことで自信に繋げていこうと考えている。 日々の保育において、自問自答しながら反省を生かし、自分の納得がいく保育ができるように努力している。 園内研修(専門教育)を有意義な時間としてもつことができ、良い刺激となった。 保育の進め方や支援の必要な子への接し方など細かな部分まで報連相を密に行い、実行に移すことができた。 限られた園庭の広さで伸び伸びと遊べるよう、学年間で相談し、利用する時間を配分した。また、怪我なく安全に遊べるように配慮した。 菜園の確保をし、生長の観察や収穫の喜びを味わえるようにしてきた。 複数担任のため、意思の統一が難しく意識的に対話を多くもち、その解消を図ってきた。 『ミラー効果』先生が笑顔だと子どもも笑顔になる。自らが楽しむ保育を目指す。 疑問に思った事やわからない事などは、すぐに先輩の先生に相談することができた。

評価結果の表示方法 A:できた B:まあまあできた C:できなかった

6. 今後の取り組むべき課題

- 積極的・具体的なPDCAを実践し、保育をすすめていきたい。

保育の進め方がうまくできなかった。変に間が空いてしまったり、子どもの気持ちが集中することができなかつたり、興味を持たせることができなかった。今後の課題として、子ども達が楽しく、興味の持てるようなきっかけ作りをしたり、保育の進め方について見直していきたい。

- 先を見通す力が足りず、指導案の実現が難しいことがある為、こまめな細案を立てていく。また、その方法を共有していく。

- 疑問に思った事やわからない事などは、すぐに先輩の先生に相談することができた。自分も先輩の先生にして頂いたように、後輩の相談にも乗れるようにしたい。